

- ◆ 海と魚の講演会「なくそうプラスチックごみ」……………1
- ◆ 令和元年度下半期の主な事業……………2
- ◆ 令和元年度下半期の主な事業・トピックス……………3
- ◆ 令和2年度事業計画及び予算・イベント散歩……………4

発行：一般財団法人  
横須賀西部水産振興事業団  
〒240-0101 横須賀市長坂2-2-2  
☎ 046-857-6596

## 海と魚の講演会「なくそうプラスチックごみ」

海をきれいにするためには街のごみをなくそう。



講師 柱本健司氏



1月23日(木)、西コミュニティセンター学習室において冬の「海と魚の講演会」を開催しました。

研修内容は「なくそうプラスチックごみ」と題して、公益財団法人かながわ海岸美化財団の柱本健司氏に講師をお願いし、「相模湾沿岸の現状とごみが海や魚にどのような悪影響を及ぼしているか」を講師から次の話を聴くことができました。

**1 海岸ごみは海岸の問題ではない、回収量2千トンのうち7割は陸のごみが川からやって来た。**

今まで海岸にあるごみは海や船、海で遊ぶ人が原因と考えていましたが、実は陸のごみ、街のごみが根源でそのごみ対策の重要性を感じました。

**2 海岸のプラスチックごみは細かくなって回収が難しい。**

現在、海岸ごみの6割弱がプラスチックごみです。それが紫外線や波の作用で細かくなり、今問題のマイクロプラスチックになっていきます。きれいに見える砂浜にも多く含んでいます。また海に浮遊し

**日本で唯一 海岸清掃専門団体**

1991年に設立  
横須賀市  
瀬河原町  
150kmの  
海岸を  
毎年清掃  
かながわ海岸美化財団の紹介

**神奈川県4大海岸ごみが多い場所**

瀬川 金目川 相模川 磯川

**年間の海岸ごみ量の推移**

2000トン前後  
海岸ごみ量は  
天候によって上下  
海ごみ問題は  
古くて新しい

**台風19号のごみ**

700トン  
↓  
年間1/3  
従来の倍  
これまでの経験や備えが通用しない

て魚が食べてしまいます。海岸清掃がそのプラスチックごみを回収する最後の砦となります。

**3 ペットボトルをごみにしてはならない。**

街を歩いていて、ペットボトルとレジ袋が散乱しているのを見かけます。ペットボトルは優れたもので回収されればリサイクルや繊維や容器に再製品化できます。全国の統計で回収割合も95%です。残り5%がごみ、しかしその本数は年間11億本、有料化されるレジ袋とともにごみにしてはならないものです。

**4 捨てないことがいちばんのごみ拾い。**

私たちができることは今あるごみを回収する、これからごみを出さない。このことが今回の講演会のまとめです。

## 令和元年度下半期の主な事業

当事業団は横須賀市域部分の相模湾の水産振興と環境美化を目的に活動しています。

令和元年9月以降の事業活動を振り返って紹介します。

### ■大楠小3年生と海洋科学高校生徒とカサゴ種苗放流

**9月24日(火)** 朝、芦名漁港に大楠小3年生80名が集合、カサゴの説明のあと、3クラス順番に放流、そのあと引率の先生方も放流して、カサ



ゴが大きくなって戻ってくることの期待が高まりました。そのあと長井の新宿漁港では実習中の海洋科学高校の生徒さん6名が放流に参加してくれました。芦名漁港で1000尾、

船で3000尾を放流、長井の新宿漁港では4000尾を放流しました。皆さんご協力ありがとうございました。



### ■荒崎海岸で清掃活動とカサゴ放流

**10月6日(日)** 「荒崎海岸クリーンフェスタ2019秋」が開催され、約130名が海岸清掃とカサゴの種苗放流を行いました。今回初めてマイクロプラスチックの説明コーナーが設けられました。



### ■サザエ、アワビの稚貝を放流

**10月8日(火)** サザエを1000個、アワビを3000個を長井地区に放流しました。

**11月12日(火)** サザエを1000個、アワビを3000個を大楠地区に放流しました。



■長井漁港の7地区、一斉清掃。

10月21日(月) 早朝から長井の漁師さんたちが日ごろ作業を行っている漁港を一斉清掃しました。きれいになりました。



■今年も啓発用ポケットティッシュを作製しました。

本年2月、令和2年度のイベント配布用に2千個を作製しました。今年のデザインは「海だけでなく川も街もきれいに」の思い込めたものになっています。



■大楠、長井、武山地区の町内会、自治会にごみ袋(45ℓ)を贈呈。

1月の講演会で「海をきれいにするためには街をきれいにする事から」と聴き、2月西地区にある44の町内会、自治会に街の清掃活動用に50枚入りごみ袋を155袋(7,750枚)贈呈しました。有効にご利用いただき海のごみ削減にご協力をよろしくお願いします。



令和2年度 事業計画及び予算

令和2年度の実施事業は横須賀市の相模湾沿岸での「海岸環境保全と美化活動」、「水産振興を目的とした調査研究及び種苗放流」、また広く地域の皆様を対象とした海や魚を題材とした研修会、そしてその取り組みを紹介する広報活動を次表の令和2年度予算により事業を実施していきます。

事業名	事業費
① 環境保全事業	3,013千円
② 調査研究・保護培養事業	6,740千円
③ 研修事業	1,117千円
④ 広報事業	878千円
⑤ 調査研究助成事業	500千円
⑥ 経営安定事業	6,000千円
事業費計	18,248千円
⑦ 管理費	3,423千円
総計	21,671千円

イベント散歩 海や地域の行事に参加、また新しい漁港の駅などを見学してきました。

9月23日(月) 観音崎観音 お披露目式典

観音崎の地名の由来とされ、火災で焼失した観音像が33年ぶりに復元され、そのお披露目会に参加しました。この観音像は奈良時代船の安全のために彫られたものなので、水産関係者として長く見守っていこうと思います。



11月29日(金) 漁港の駅、TOTOCO小田原

毎年開催されている関東東海水産関係公益法人連絡協議会の中で昨年11月22日オープンした「漁港の駅、TOTOCO小田原」を見学しました。JR早川駅に近い海沿いにあり、伊豆、熱海方面への主要道路に面しています。平日のお昼でしたがお客さんはいっぱい、活気ある場所でした。



1月7日(火) 東部地区水難救助訓練 + 三崎漁港

「海の消防団」として活躍する漁業者で組織する水難救済会のメンバーが三崎漁港に集まり年1回の水難救助訓練を行いました。当事業団も見学のため参加、毎年会場は当番制で平成28年の佐島から、逗子、長井、腰越、今年三崎で5回目の見学となりました。こうした訓練をとおりしてプレジャーボートなどが遭難したとき、漁師さんたちが救助に活躍できるのを感じました。



1月9日(木) 神奈川県漁業者交流大会

毎年開催される交流大会ですが今年は初めて横浜駅近くのホテルプラムで行われました。今回の活動発表は「若い漁師が活躍する定置網漁場へ」と題したもので小田原漁協の若手の活躍ぶりを知ることができました。また青年漁業士5名の認定証書授与式もありました。



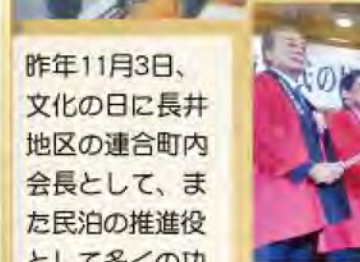
1月17日(火) 2019年報道写真展

新聞を読むと報道写真展の広報が掲載されていて、興味があったので開催会場の関内にあるニュースパーク(日本新聞博物館)に足を運びました。テレビのような動画ではなく、落ちついて1枚1枚の写真を見ることはそのニュースを自分なりの記憶で回想でき、良かったと思います。



トピックス

当事業団理事の原忠(はらあつし)氏が秋の叙勲で旭日単光章を受賞。



昨年11月3日、文化の日に長井地区の連合町内会長として、また民泊の推進役として多くの功績が認められ、当事業団理事の原忠氏(84歳)の叙勲が発表されました。当事業団では12月の理事会でお祝金の贈呈を行いました。また今年2月11日に「受賞を祝う会」が横須賀セントラルホテルで開催され、小泉環境大臣を初め、関係者約160名が集まる盛大な祝賀会でした。参加した全員が原忠氏への感謝とねぎらい、また年齢にとらわれず今後の活躍に期待する、心が温まるものを感じました。

トピックス

エコミル(横須賀ごみ処理施設)が3月から本格稼働。



2月29日(土)、今年、3月2日から本格稼働したエコミルに「横須賀ごみ処理施設建設対策協議会解散式」への参加と施設見学のために行ってきました。12万5千平米の敷地に近代的な清掃工場、横須賀市と三浦市のごみ処理は安心です。この協議会はこの施設建設に周辺住民の声を横須賀市に届け、その実現に力を発揮した組織です。この地域に尽力をつくされた委員の皆様へ敬意を表します。

編集後記

令和元年度下半期は台風の来襲で施設に被害、そして今、新型コロナウイルス感染拡大で経済がストップ、すべての人が見えない敵と戦いをしています。

当事業団はこれまで漁協や地域の皆さまに支えられ事業を進めてきました。新年度、コロナウイルスの不安もありますが計画にしたがって事業を実施していきます。ご協力よろしくお願いいたします。